

## ラグ作用素で遊ぼう

次の級数計算をみてください.

$$\sum_{s=0}^{\infty} \frac{1}{2^s} \cdot \frac{2s+1}{(s+1)!} = 1 + \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{2!} + \frac{1}{4} \cdot \frac{5}{3!} + \frac{1}{8} \cdot \frac{7}{4!} + \frac{1}{16} \cdot \frac{9}{5!} + \dots = 2. \quad (1)$$

念のため、数値計算の結果を示せば

$$\begin{aligned} 1 + \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{2!} &= 1.75 \\ 1 + \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{2!} + \frac{1}{4} \cdot \frac{5}{3!} &= 1.958333\dots \\ 1 + \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{2!} + \frac{1}{4} \cdot \frac{5}{3!} + \frac{1}{8} \cdot \frac{7}{4!} &= 1.994792\dots \\ 1 + \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{2!} + \frac{1}{4} \cdot \frac{5}{3!} + \frac{1}{8} \cdot \frac{7}{4!} + \frac{1}{16} \cdot \frac{9}{5!} &= 1.999479\dots \end{aligned}$$

となって、かなり急速に2に近づいていることが分かります.

この類のおもしろい級数計算は、じつはラグ作用素を用いれば簡単に作成できるのです. あらためて、 $L$ を「前進ラグ作用素」としましょう. すなわち自然数  $t$  について項  $x_t$  を対応させる数列  $\{x_t\}$  について

$$Lx_t = x_{t+1} \quad (2)$$

とします. なお時系列分析ではむしろ「後退ラグ作用素」 $\mathcal{L}$ によって

$$\mathcal{L}x_t = x_{t-1} \quad (3)$$

を考えることが普通ですが、これは前進ラグ作用素の逆作用素であって  $\mathcal{L} = L^{-1}$  と書きます.

ラグ作用素を何回か連続して用いるときには  $L^n$  とまとめて書きます. これは

$$L^n x_t = L^{n-1}(Lx_t) = L^{n-1}x_{t+1} = \dots = x_{t+n}$$

と解釈します.

(ex) 数列  $x_t = \sqrt{t}$  を考えます. このとき  $Lx_t = \sqrt{t+1}$  であり、さらに

$$L^2 x_t = \sqrt{t+2}, \quad (1 - 2L + L^2)x_t = \sqrt{t} - 2\sqrt{t+1} + \sqrt{t+2}$$

などと計算します.

ラグ作用素の計算では、次の公式が洒落ています.

**定理：ノイマン級数展開** 任意の実数  $|a| < 1$  について、作用素  $1 - aL$  の逆作用素は

$$(1 - aL)^{-1} = 1 + aL + a^2L^2 + a^3L^3 + \dots = \sum_{s=0}^{\infty} a^s L^s. \quad (4)$$

証明は容易です. 適当な数列  $\{x_t\}$  を用意しましょう. これに  $1 - aL$  を施せば

$$(1 - aL)x_t = x_t - ax_{t+1}$$

となるだけです. つぎにこの結果に  $\sum_{s=0}^{\infty} a^s L^s$  を作用させると

$$\sum_{s=0}^{\infty} a^s L^s (x_t - ax_{t+1}) = (x_t - ax_{t+1}) + a(x_{t+1} - ax_{t+2}) + a^2(x_{t+2} - ax_{t+3}) + \dots$$

となって, 隣あう項が打ち消しあうので  $\sum_{s=0}^{\infty} a^s L^s (x_t - ax_{t+1}) = x_t$  が得られます.

つまり, 任意の  $x_t$  に  $(1 - aL)$  を作用させてから, さらに  $\sum_{s=0}^{\infty} a^s L^s$  を作用させればもとの  $x_t$  に戻ることが確認できたので, これより定理が証明できました. [QED]

冒頭の公式は, じつはこの定理から作っています. いま,  $x_t = 1/t!$  としましょう. また  $a = 1/2$  として

$$\left(1 - \frac{1}{2}L\right) \frac{1}{t!} = \frac{1}{t!} - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{(t+1)!} = \frac{1}{2} \cdot \frac{2t+1}{(t+1)!}$$

を得ます. この結果に  $\sum_{s=0}^{\infty} L^s / 2^s$  を施せば, 定理よりももとの  $1/t!$  に戻るはずですが. すなわち

$$\sum_{s=0}^{\infty} \frac{1}{2^s} L^s \left[ \frac{1}{2} \cdot \frac{2t+1}{(t+1)!} \right] = \frac{1}{2} \sum_{s=0}^{\infty} \frac{1}{2^s} \left( \frac{2(t+s)+1}{(t+s+1)!} \right) = \frac{1}{t!}$$

が成り立ちます. 最後に,  $0! = 1$  であることに注意して  $t = 0$  を代入すれば, 冒頭の数式が得られるのです.

### 練習問題

$a = 1/2, x_t = 1/t!$  として

$$\sum_{s=0}^{\infty} \frac{1}{2^s} \cdot \frac{s+3}{(s+1)(s+2)} = \frac{3}{1 \times 2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{4}{2 \times 3} + \frac{1}{4} \cdot \frac{5}{3 \times 4} + \frac{1}{8} \cdot \frac{6}{4 \times 5} + \dots$$

を計算してみよ. また

$$\sum_{s=0}^{\infty} \frac{1}{3^s} \cdot \frac{s+4}{(s+1)(s+2)(s+3)} = \frac{4}{1 \times 2 \times 3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{5}{2 \times 3 \times 4} + \frac{1}{9} \cdot \frac{6}{3 \times 4 \times 5} + \dots$$

を計算せよ.